

有秋大地

回覧

お知らせ

有秋公民館では毎月第4日
曜日体育室を一般開放して
います。
・当日直接窓口または電話で
受け付けできません。
利用時間： 半面2時間
利用料金： 無料

「災害に備えて」避難所開設運営訓練

台風シーズンを迎え公民館指定管理者運営委員会委員及び職員による公民館
避難所運営手順等を確認しました。

有秋公民館は、台風などの災害時に市指示の下、早期開設避難所として開設し
昨年秋の台風では多くの方々が公民館へ避難しております。

今年はコロナ禍による感染症拡大予防が公民館の重要な課題で、利用制限がある
中、避難者に安全・安心に利用して貰うための防災備品の確認や使用方法を学びま
した。

【8月23日(日)有秋公民館体育室】



【防災倉庫内の確認】



【受付手順の確認】



【検温】



【体育室内仕切りテント設置訓練】



【段ボールベッド設置訓練】



【段ボールベッド完成】

令和3年有秋地区成人式のお知らせ

- ★ 期 日 令和3年1月10日(日)
- ★ 受 付 10時より 開式11時
- ★ 会 場 有秋公民館体育室

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の
状況により内容の変更や式典を
中止する場合があります。



【写真は昨年
の様子です】

有秋公民館登録

サークル活動紹介

陶友会(陶芸)

陶友会は今年創立28年を迎えるサークル
です。市川講師のもと、毎月第2火曜日9時から
13時まで作陶に励んでいます。
各自オリジナリティあふれる作品
を仕上げています。
お気軽に見学にお越しください。

(*^_^*)

昨年の
公民館祭の
展示作品



M V C(バレーボール)

MVC(バレーボール)は、実技を
基礎から勉強するとともに、楽しみ
ながら有秋地区活動に貢献するこ
とを目的としたチームです。現在15
名で毎月第一、第二、第三、第四、
火曜日10時から12時まで練習し
ています。
見学にきてみませんか。(^^)



江戸時代は巡礼の時代でもありまし
た。人々は四国八十八カ所のお遍路や全
国百カ所の観音霊場(西国三十三カ所、
板東三十三カ所、秩父三十四カ所の計百
カ所)を巡り、相模大山、富士山、御嶽
山、出羽三山、白山などの霊峰を登拝す
ることを夢見ていました。全国六十六カ
所の霊場を廻り、六十六部の法華経をそ
れぞれの霊場に奉納する廻国巡礼も隠
居後、死ぬまでの内に達成したい大きな
目標の一つでした。何もお伊勢参りだけ
が人々の憧れではなかったのです。江戸
時代以前はそれらの巡礼の旅に出ること
が民衆にとって現実的ではありません
でした。街道は未整備で治安も悪く、
宿泊施設がほとんど無かった時代、一部
の運送業者や商人を除けば多くの民衆
は狭い生活圏の中で生涯を送らなけれ
ばなりません。巡礼は過酷で命が
け、出家した世捨て人でなければ到底な
し得なかったのです。参勤交代制により
街道が整備されて宿場町が形成されて
いく、太平の世になって治安も向上し、
いよいよ民衆の動きが徐々に活発化し
ていく江戸時代。信仰と異郷の地への憧
憬を満たした先達の言葉が民衆をより
一層巡礼の旅へと誘ったのでしょう。
大乘妙典「法華経」六十六部を書写し

シリーズ 有秋の里を歩く — その6 六部の足跡 —

鎌倉街道を歩く会：鎗田 誠(県立千葉北高等学校教諭)



椎津霊光寺:寛政8年(1796)



不入斗薬王寺:享保16年(1731)

て全国六十六カ所の霊場に一部ずつ奉
納する目的で諸国を行脚(あんぎゃ)し
た行者を「六十六部」とか「六部」、あ
るいは「廻国衆」と呼びました。彼らは
釈迦入滅後から弥勒菩薩が下生するま
での無仏時代に当たる56億7千万年の
間、法華経を悪魔や外道から守るために
全国を遊行(ゆぎょう)したのです。鎌
倉時代から始まったと言われる六十六
部の廻国は巡礼の一つで写経という善
行と廻国という苦行によって「天下泰平、

五穀成就、日月清明、二世安楽」等を願
うものでした。江戸時代には形式化し、
写経はせずに納経札や金銭を納めるだ
けとなったようです。巡礼者は納経帳を
持って歩き、行く先々の寺社で受取を書
いてもらう形式が広く普及してしま
した。とはいえ遊行は数年がかり、場合
によっては10年を超える苦行には違
いありません。廻国を成就した行者ら
は誇らしげに郷里に廻国塔を建て、
出立と帰着の年月日を刻みました。し
かし行半ばに

して病にかかり、あるいは不慮の死を
遂げた行者も少なくなかったよう
です。この場合には現地の心ある施
主が供養のために「六十六部供養
塔」を建てました。これらを総称
して「廻国塔」といいます。

左は伊予国(愛媛)出身の六部の廻
国供養塔です。彼はこの地におい
て志半ばで病没してしまったよう
です。ただしこれだけ立派な供養
塔を建てられているということは
その死に際しても手厚く看病され
ていたことがうかがえます。実
は霊光寺は久留里藩主や一橋家の
帰依を受け、当時は相当裕福な寺
であったようです。しかし「六部
殺し」の伝承が各地に残されてい
るうちに、余所者への警戒感が強
かったこの時代、山中の巡礼路で
ただ一人行き倒れたり、犯罪に巻
き込まれてしまった六部もきっと
多かったに違いありません。

「・・・つまり安心できる場所は
はるか彼方にしかない。・・・ど
んなに遠くとも、私たちはその場
所に向かって力のかぎり近づいて
いかねばならない・・・あきら
めるのか、這ってでも前進する
のか、たとえ傷ついていても・・・」
(『はじめてのマインドフルネス』
クリストフ・アンドレ著 2016年
紀伊國屋書店:P.220より引用)

